

教職員の在校等時間集計結果【令和5年4月のまとめ】

令和5年6月 群馬県教育委員会 学校人事課管理係

毎月の在校等時間報告に御協力いただきありがとうございます。令和5年4月分の集約結果を以下の通り報告いたします。

今年度分も、毎月の集約結果に加え、県内各校で行われている業務改善の取組の紹介、調査等から見えた多忙化解消のヒントなどを当課より発信していきます。

学校における働き方改革を一層進め、これまで以上に教職員が児童生徒としっかりと向き合えるように各教育委員会、各校、そして各教職員が一致して取り組んでいきたいと思ます。



令和5年4月の状況について

■例年、月45時間以上の時間外在校等時間となる方の割合が最も多いのが4月です。加えて、今年の4月は、感染症対策が緩和に舵を切ったことで、時間外勤務が前年同月を上回ることが懸念されていましたが、小中高で45時間以下の方が増えました。これは、各学校や教職員一人一人の働き方改革の効果が現れたのではないかと考えられます。

■昨年末発出の提言R5を拠り所にした業務の「廃止・縮小・ICT化」は進んだでしょうか。この夏、調査を行い、提言R5の浸透状況と業務量の改善状況を調査させていただきたいと考えております。



働き方改革の価値

■全国的な話題となっている教員不足。教員を目指す若者が減っているとも言われていますが、そのことが教員不足を招くと、今働いている先生方の長時間労働が改善せず、さらに教員不足を招くという負のスパイラルを生み出してしまいます。「教員」という職の魅力が向上し、それが認知されて教員になりたいと思う若者が増えてくれることが、このスパイラルから抜け出すきっかけになるはずです。そのためにも、今いる先生方が生き生きと働ける環境を作ることがとても重要です。



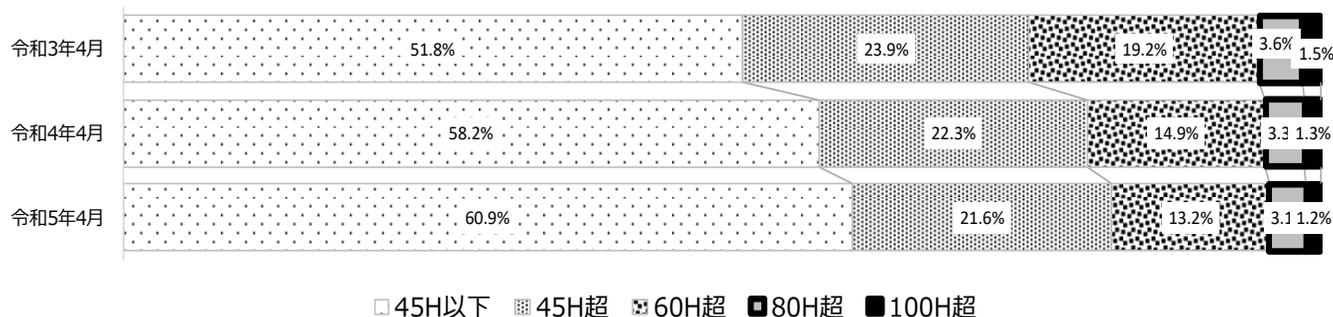
■今回のお知らせでも、時間外在校等時間のデータを公表させていただいていますが、重要なのは、在校等時間を減らすことだけではなく、先生方にとって働きやすい環境を作っていくことにもあると考えています。例えば、働く中で不満に思うことが多ければ、業務に従事する時間が短くても、決して働きやすい職場ではありません。学級で問題が発生して、急な対応を求められるといったこともあるのが学校ですが、そんな時に互いを助け合える職員集団を作っていくことが、非常に重要であると考えられています。

職員の助け合いにはいろいろな形がありますが、例えば「データの管理」もその一つです。学校の実態に合わせて作成したプリントなどの教材や各種通信などは、次年度にとっても役立ちます。次の担当者のためにも、分かりやすく保存しておくことが重要です。誰が見てもわかるようなフォルダ、ファイル名の管理を心掛け、互いの業務を効率化していきましょう。

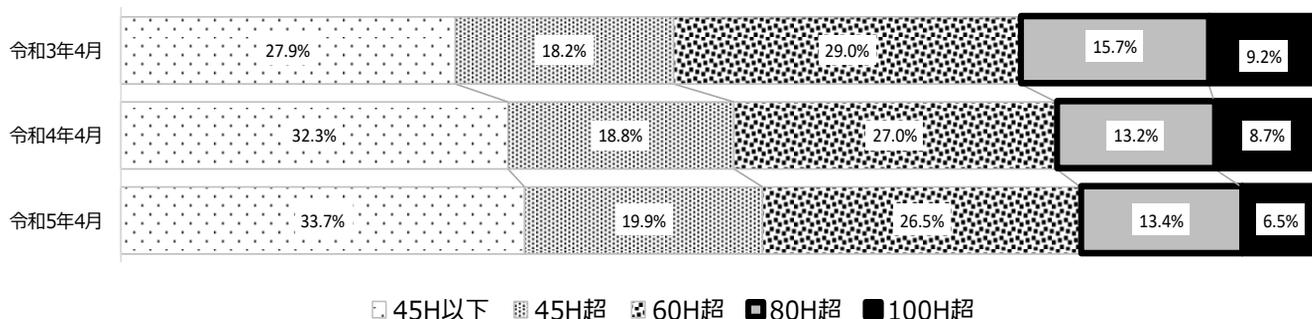
時間外在校等時間の状況【4月の経年変化】

[市町村立・県立の全校を対象とした校種別の時間外在校等時間の状況調査]

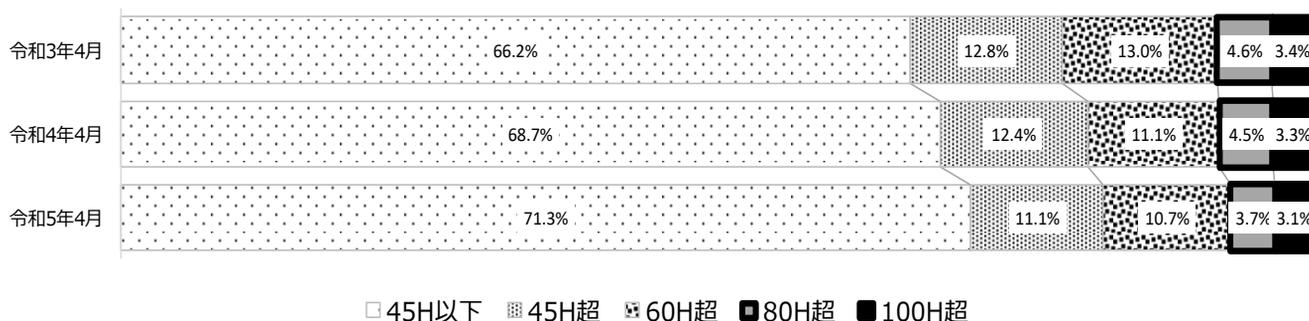
1 小学校の状況



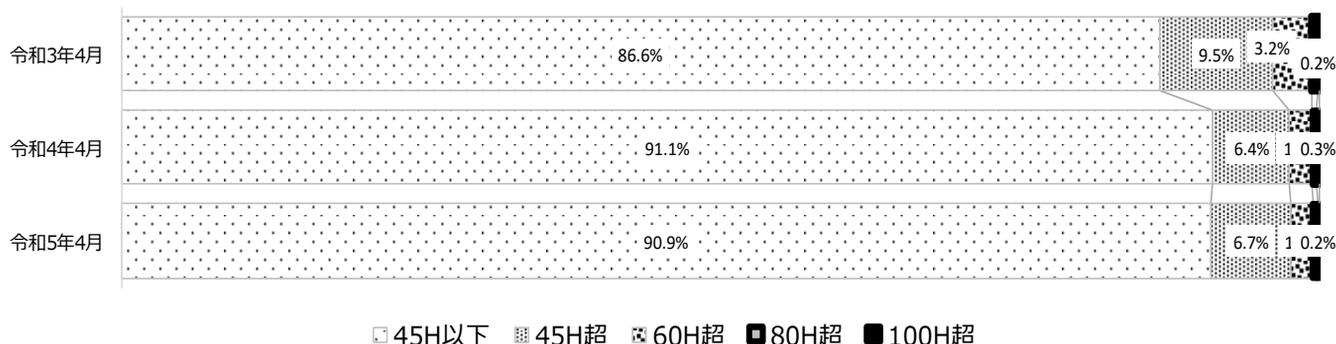
2 中学校の状況（市立の義務教育学校を含む）



3 高等学校の状況（県立・市立の中等教育学校,市立の高校を含む）



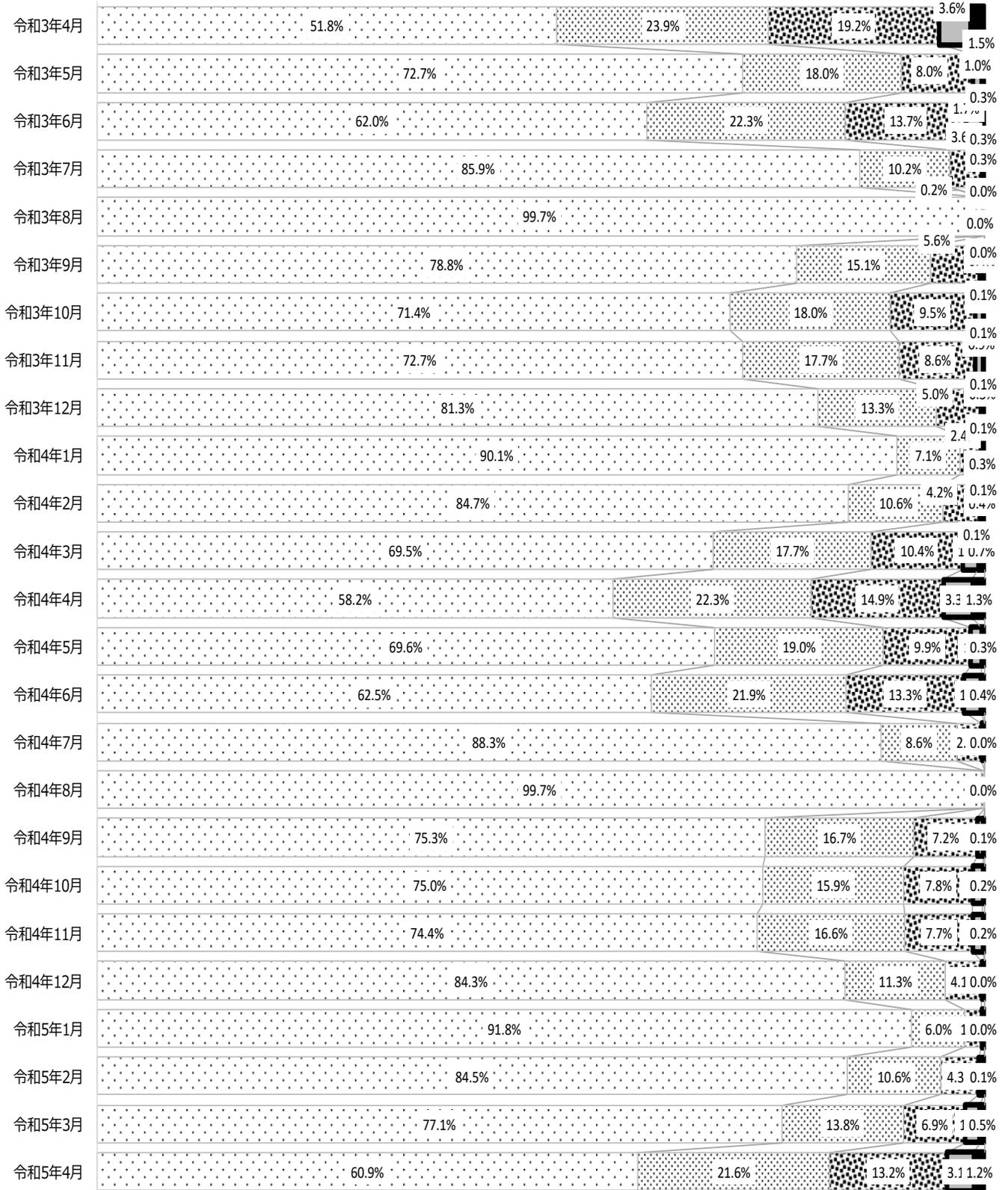
4 特別支援学校の状況（市立の特別支援学校を含む）



時間外在校等時間の状況【令和3年4月～】

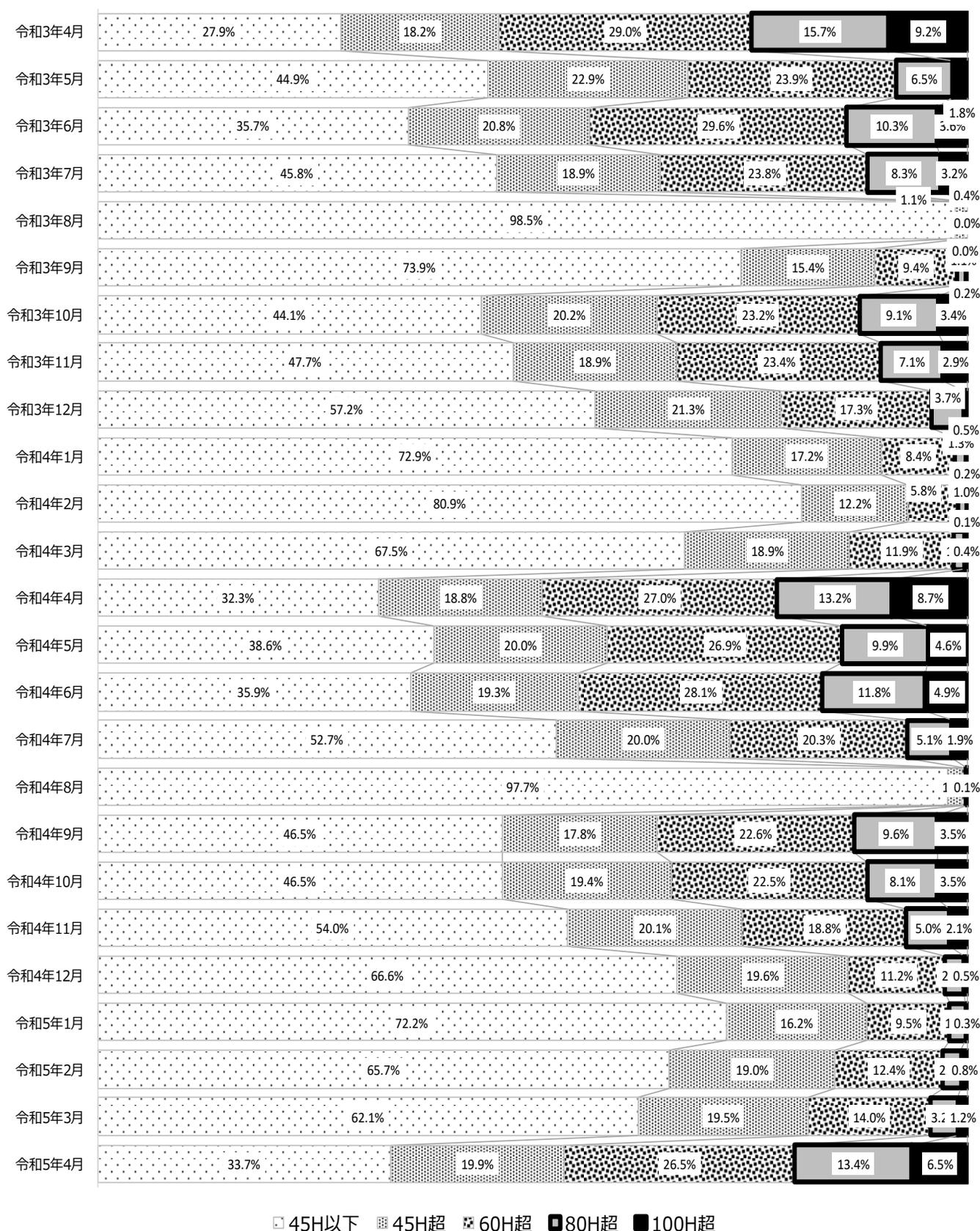
[市町村立・県立の全校を対象とした校種別の時間外在校等時間の状況調査]

1 小学校の状況



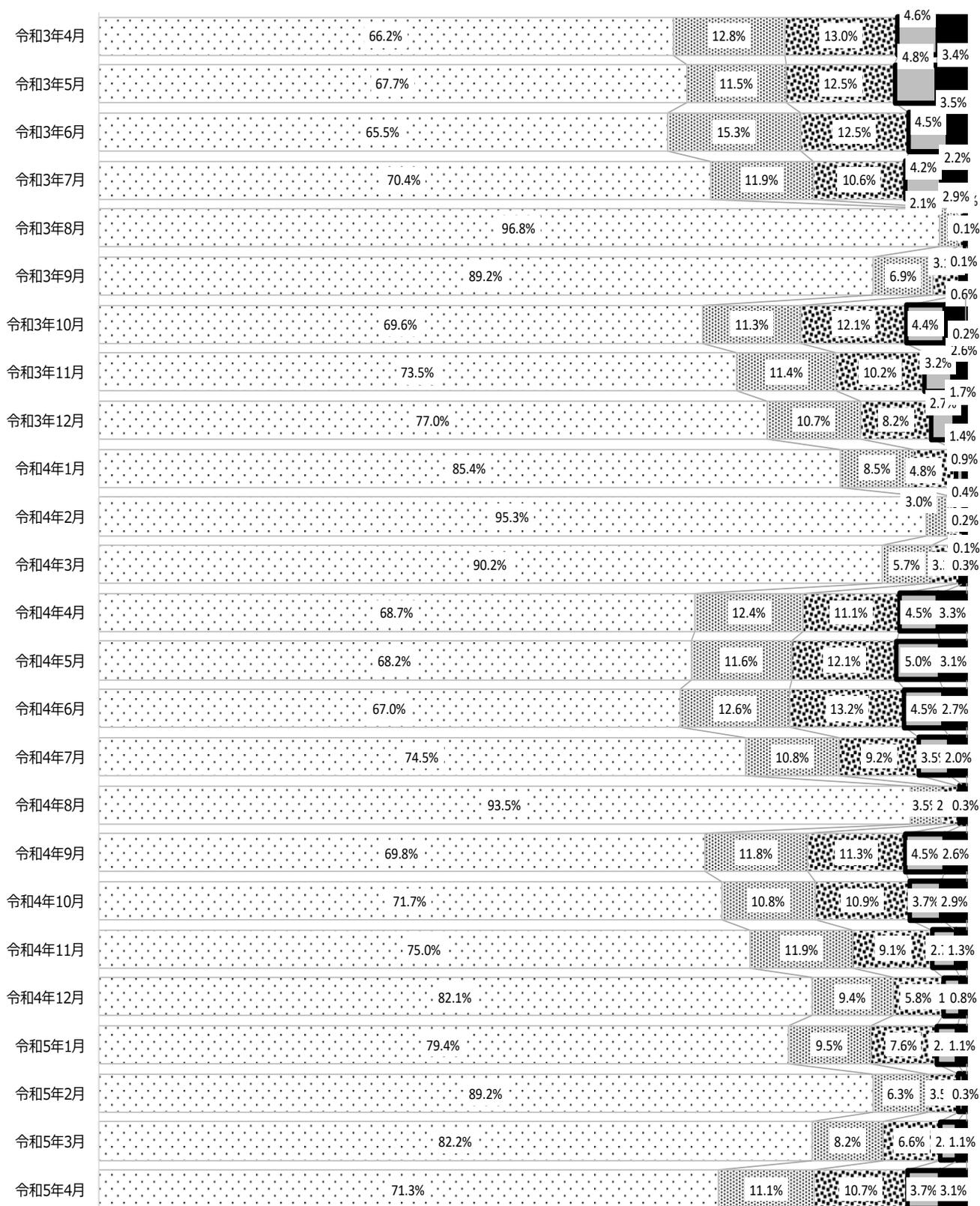
□ 45H以下 ▨ 45H超 ▩ 60H超 ■ 80H超 ■ 100H超

2 中学校の状況（市立の義務教育学校を含む）



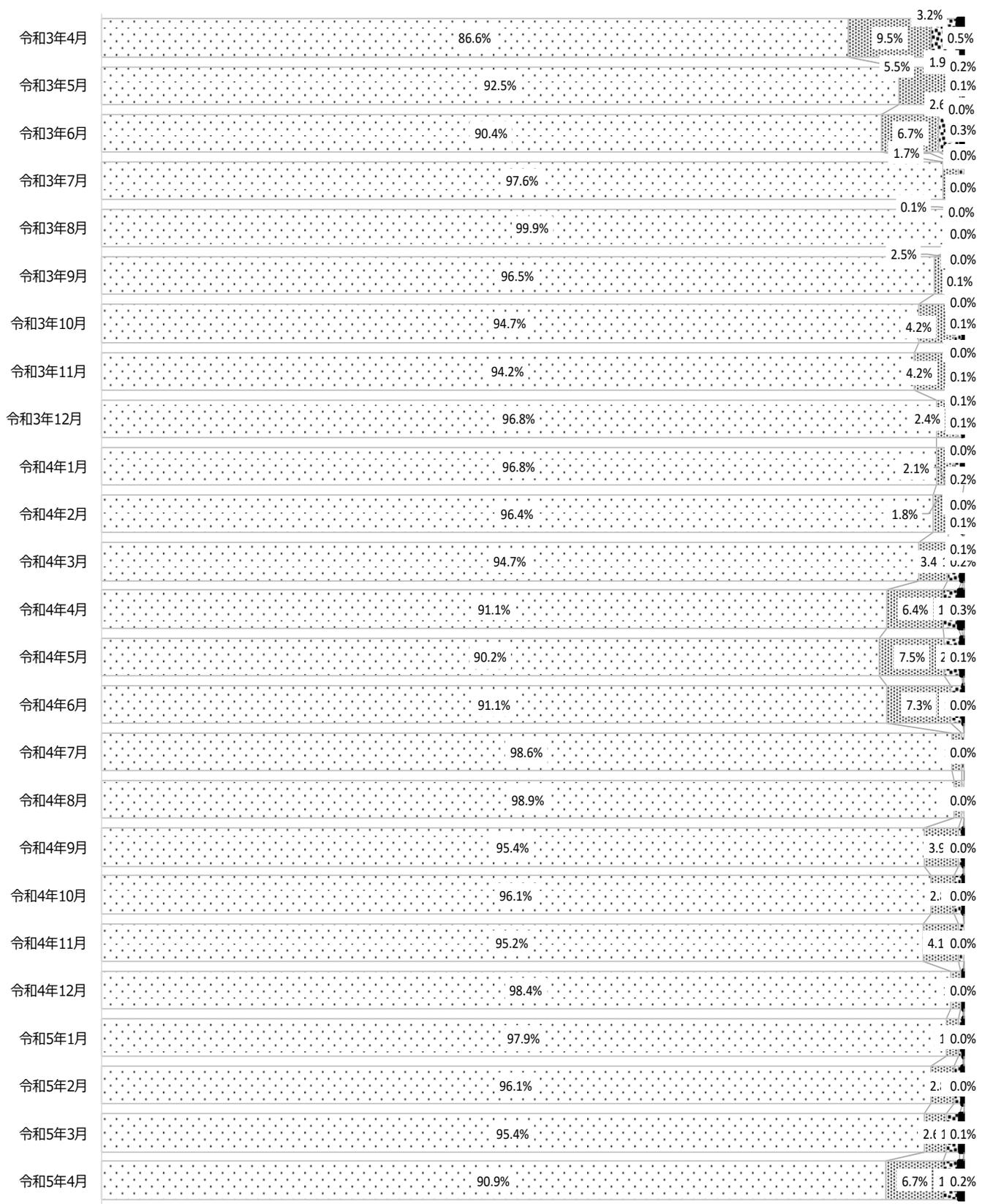
□ 45H以下 ■ 45H超 ▨ 60H超 ▩ 80H超 ■ 100H超

3 高等学校の状況（県立・市立の中等教育学校含む）



□ 45H以下 ■ 45H超 ▨ 60H超 ■ 80H超 ■ 100H超

4 特別支援学校の状況（市立の特別支援学校を含む）



45H以下
 45H超
 60H超
 80H超
 100H超